

岩手県 グループホーム ひだまり

(部分は外部評価との共通評価項目です)

自 己 評 価 票

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	美楽会理念、グループホーム基本方針が設定されている	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に1度の全体会で理念を唱和し各々がその取り組みについて発表している	理想としては暗記できるような取り組みが望ましい
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議委員に行政区長も構成委員となって頂いている	毎年の課題であるが事業所が町内会に入会し更には運営推進会議委員に民生委員の方にも委員になって頂くことが望まれる
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣とは顔馴染みの関係である。	通勤途上や散歩に挨拶を交わすだけではなく気軽に立ち寄って頂きたい
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年に1回の地域交流夏祭りを開催しており年々参加人数が増えてきている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域貢献までは及んでいない	○	事業所主催の介護教室等の開催(特に認知症高齢者対象の内容)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	日頃のケアのふりかえりやマンネリ化にならない機会と認識している		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催はされているが内容の充実やサービス向上への活用には未達と思われる	○	会議の意義の原点にかえり内容の充実へと企画の吟味が望まれる
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議構成委員である地域包括センター職員の方を中心に市町村との連携をより深めていきたい	○	ホーム便り等を市町村介護保険係にも配布し事業所の情報提供の機会にしたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護制度そのものの学習会が前回の課題であったが未開催である	○	法人在介センター職員に依頼し年度内開催予定としたい(事前の資料等の配布による学習会も含めて)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会は未開催	○	運営推進会議の機会を利用し地域包括センター職員より関連法についての指導及び学習会の実施

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を掲示しサービス内容について説明したうえで同意を頂いている	○ 入所後状態変化により不安や疑問点に対して十分な理解や納得が難しい場合がある
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の不満内容を出来る限り運営に反映するよう心がけているが利用者の限らない要望には応じかねるケースがあった	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態に関してはその都度報告遠方のご家族にも最低月1回は様子を報告している。金銭管理は概ね2～3ヶ月毎出納簿の写しをお渡ししている。職員の異動の際は来所されたときにご紹介している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来所の際はご意見をだしていただける雰囲気づくりに心がけている。	○ 年に2回はご家族の方への事業所に対するアンケート等により意見を頂く機会を設けていきたい
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会、ミーティングの際あるいは個人的な意見にも傾聴するよう心がけている	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事等には必要な職員を確保するようシフト調整をはかっている	○ 少ない職員配置の為ゆとりある介護ができず職員ペースとなる時があり時間を科学し業務の見直しも含めあくまでも利用者本意のケアの日々にしていきたい
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動の頻度は少ない	○ 職場環境を整え定着を図り離職による利用者へのダメージを防止したい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	G・H協定例会、外部研修へは積極的に参加するよう推奨し資格取得等がモチベーション維持向上につながることも助言している	○ 気づきへの評価
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同上	○ 交換研修の実施
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	事業所で1職員の研修の一端としてストレスに関するアンケート調査あり調査結果は効果的であった	○
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員の個性を理解し発揮できる機会づくりを心がけている	○ ストレスマネジメントを心がけ引き続き年2回のアンケート等を実施しストレスの軽減をはかりそれが利用者の方への接遇に効果が得られたり職員間のコミュニケーションづくりの効果にも期待したい
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	現時点の理解と同時にバックグラウンドを把握し安心からくるところの笑顔の場をさりげなく追求している	○ センター方式のアセスメントの学習会を設け活用を確立したい
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	身内であるがためのジレンマを第三者の職員が理解し受けとめることを重要視している	○ ご本人、ご家族理解から認知症介護がなりたっていることを認識を深めていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前訪問調査及び入所時には他の利用者の方へのリラックスした雰囲気でご紹介する(時間をかけての自己紹介)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	バググランドから利用者の方の特技を発揮して頂く監視にならない観察から利用者を把握している		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会に来所の際は利用者の方のご様子、近況をお伝えしました利用者の方からご家族への思いを代弁を心がけている	○	今年度の誕生会はホーム全体の開催にせずご家族のご都合とお計らいによりご家族の方との触れあう日を試みている
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	永年の関係は短時間で解りあえたり逆に崩壊しないとは思われ家族の1員であり続ける様支援に心がけている。	○	ご家族の1員でい続けるための声かけは続け協力を得られるよう支援及び工夫をこらしていきたい
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	機会は少ないが馴染みの方や場所への訪問を心がけている	○	お誕生会には馴染みの方にお会いしたりなつかしい場所へ訪問する機会としたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	レクレーション、おやつ作り、食事のお手伝い等から孤立する方に対して職員が介入し入所者間関係をとりもっている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所者の大半は重度化によるケースが多く契約終了後のサポートも出来る限りおこなっている	○	入院等の場合のお見舞い等
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の方の趣味や関心な事は取り入れ喜びにつなげている	○	時間職員数に制約あるものご本人の希望はぜひ取り入れるように検討したい
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バッググラウンドを把握したうえでの会話から利用者の表情に輝きを発見する機会がある	○	ご本人の記憶からの情報が困難な場合過去をしろご家族より情報を頂く
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご本人の得意な事の発見につとめている(唄、踊り、家事、縫い物、生け花)	○	家事に参加して頂いているが無理強いにならないように配慮する
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	気になる点ばかりではなくご本人の良いところにも着眼した計画の作成	○	ご家族の意見の反映の機会が少ないので検討を要する
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々利用者の方の状態やご様子に変化しタイムリーな計画作成が難しい	○	計画作成を見直ししタイムリーな計画に連動したケアと記録法の検討

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	同上		同上
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスとの情報交換		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域資源との協働の機会が少ないが駐在所には立ち寄って頂く様依頼し消防署には訓練に立ち会っていただいている	○	ホーム便り等を持参のうえ地域資源へのご紹介を拡大していきたい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		○	地域ケア連絡会への参加
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の際、権利擁護制度等のアドバイスを頂く機会があった	○	更に増えるであろう認知症高齢者の方への支援の際センターとの協働が連携体制が必要
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所者の大半が協力医院の主治医となっており必要時適切な医療をうけている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者の2名は精神科医より処方を受けており受診の際は日頃の状態を報告している	○	引き続き受診の際はアドバイスを受ける機会としたい
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	出勤の日はケアの傍ら利用者の健康管理を心がけ必要時受診介助を行っている	○	日頃管理者は介護の視点で利用者とかかわっているが必要時看護師としての視点で健康管理を心がけていきたい
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院後は定期的に様態の情報を収集につとめている	○	定期的にお見舞いに行きご本人の様子を直接うかがう
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルの方針はないが一定のレベルを見極め次の段階を共有している	○	法人の方針しだいでは週末ケアの導入を望む
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ADLの面で食事全介助状態が事業所の最終ケア段階であるが極力経口摂取可能な調節工夫をしている	○	G。Hケアにおいて週末ケアが課題とされている今日、方針はないが課題とされている限りG。Hにおける終末期ケアについての取り組みの知識は今後必要と思われる。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入所の時点であるいは食事の介助を要するようになった時点でご家族には移り住む時期にきていることを受容して頂く様説明	○	ご本人以上にご家族の方が住み替えに対して不安をいだいておられる為出来る限りのサポートに当たっていききたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護の原則に否定しない、軽視しない、叱らない、拘束しないを原則としている	○ 全スタッフに原則が共有できるようにしたい
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	お茶の時間に好みのものを選んで頂いている	○ ウェーティング出来るゆとりのあるケアの見直しが必要(食事、入浴、排泄)
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	限られたスタッフでややもすると職員側の都合が優先する場合がある	○ No.51に同様
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自分で衣類を選べる利用者には続けて頂き選べない利用者にはスタッフが吟味して選ぶ。理容、美容に関してはご本人の意思決定が難しくなっている	○ 衣類、理容美容に関してご本人が意思決定や希望の表現がむずかしくなった場係わるスタッフの吟味を心がける
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主にスタッフが食事の準備に係わるが部分的には利用者の方にも調理、した準備、後片付け等手伝って頂いている	○ メニューをスタッフが中心に考えているが利用者の方の好むを取り入れる機会を忘れない
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	行事で飲酒の機会としている。おやつは菓子類が主となっているが時には手作りのもので利用者の方と楽しんで頂いている	○ 手作りおやつをもう少し増やしたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用しご本人がなるべく自然に排泄できるよう支援しトイレ誘導は無理強いせずまたリハビリパンツの昼夜使用の種類の工夫や夜間トイレ使用していただいている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日、時間帯は決まっているが本人の意向を尊重している	○	入浴が楽しみの1つになるように入浴日、人数については検討したい(ホームの浴室の利用)
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	睡眠チェック表を使用し睡眠状態の把握し日中の活動と自然な睡眠が出来るようにしている。個室の効果も得られている	○	夜間利用者が内鍵を施錠されているため巡視の際鍵を開ける音で目覚められる
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事、唄、踊り等ご本人の得意な分野で発揮していただいている		最低でも月1回はお楽しみの機会を設けたい(ドライブ、外食)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人のお小遣いについては使用した際レシートを預かっておく等ホームで管理している		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご本人の買い物や散歩に付き添いあるいは外出を促す取り組みをしている		中庭でのお茶、ラジオ体操の時間日によっては散歩の時間にしたり等の工夫し気分転換及び外気欲の機会にする
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご本人やご家族の要望をとり入れた誕生日会にしたり外食、日帰り温泉旅行を実施している		来年度も今年度同様のお誕生日会の企画としたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により電話の取次ぎをおこなっている	○	月1回はご本人がお手紙を書く日を設け残存能力活用の機会とする
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族の方には来所していただき、知人、友人の方の来所の機会は少ない	○	
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一貫して行っていない		転倒、転落が予測される利用者へのリスクマネジメントを強化していきたい
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の身体に危険を及ぼすおそれのある出入り口(裏口)以外は施錠していない		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個室には鍵が内鍵になっている夜間は巡視時スタッフが開放また日中は居室に訪室する際声がけし妄想につながる恐れのある利用者の方への訪室にはさりげない工夫をしている	○	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ベットに関しては個別に対応している。就寝介助後のポリデント入りの義歯や紛失しやすい補聴器メガネ等はホームで管理	○	破壊行為のある利用者の居室の物はある程度管理を必要としている
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止係を中心に発生事故、ヒヤリハット等の報告をまとめている	○	報告書をまとめているが分析共有のプロセスが充分とはいえない早期に予測されるリスク(個々)回避へのマニュアル作成が必要

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時連絡網を整備し対応している	○	研修係を中心に年間の施設内研修に予定したい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防訓練を実施している	○	地域の方々の協力は確立されていない
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者全員のご家族との話し合いはなされていないが起こりうるリスクについてミーティング等が必要である	○	リスクマネジメントを全スタッフが意識し発生した事故を共有し危険予知しながらケアにあたる
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定 体調の変化についてはご家族に報告し協力医院への受診介助を行っている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をすぐ見ることが出来るようにし症状の変化見られた場合主治医に報告している		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	栄養士の指導を参考に献立を工夫したりADLに合わせた体操や運動をこころみている	○	週3回のヤクルト飲用も効果があると考えられる
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	就寝介助時の口腔ケアの実施	○	毎食後のケアが更に望ましい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取状態が必要な利用者には量チェック表を用いている 必要の栄養を確保できるよう支援している(必要時捕食及び刻み方軟菜食の工夫等)	○	水分に関しては毎食後のお茶、10時、3時のお茶で水分不足にならないようにし特に自力摂取できない利用者には必ずスタッフが見守り介助する
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症および食中毒対策マニュアルに基づいて対応している 外出後と食前の手洗いの実施(器具用手指用アルコールの設置)	○	研修係が年間事業所内研修を開催
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	給食係を中心に食中毒防止期間の調理器具の消毒の実施 し食材については2日に1回買い物にスーパーで行い昼の食材は毎日配達を依頼している(賞味期限の確認)	○	約7年半食中毒発生はなかったが今後も発生防止に認識し食品を取り扱っていきたい
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門扉、玄関は施錠せず日中は開放している	○	地域交流夏祭り以外にも近隣の方が立ち寄っていただける工夫を考えたい
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	少々殺風景なので生活感のある共用空間とはいえない	○	廊下には絵、リビング玄関に関して花や観葉植物がほしい(破壊行為のある利用者に留意しながら)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングと和室前にソファや椅子の設置	○	少人数の方が過ごせるミニ共有スペースが必要と思われる

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	本人とご家族の希望に応じている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	1日3回室温測定を実施し調整、換気をおこなっている	○	pトイレを利用の方の臭気対策が必要また常時トイレの換 気扇は回っているが芳香剤の定期的交換を実施している
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	ホーム内の各箇所の手摺りバリアフリーも利用者の方の安全 な自立歩行に役立っている	○	ホール、屋内とバリアフリーで外へ容易に出やすい反面利 用者のかたのエスケープも侮れず監視にならない観察見 守りは強化したい
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	自分の居室がおぼえられない利用者には名前を表示またご本 人の残存能力を見出しそれを役割とし強制にならないよう続 けて頂いている	○	茶碗洗い等日曜日の週1回は日頃のお手伝いに感謝し休 んで頂く。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	ベランダはないが屋内の花や菜園が見える窓辺がある	○	庭の雑草を定期的に除草を手伝って頂く利用者の意欲を 大切にし労いの言葉がけも忘れないようにしたい

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

理念に基づいたケアにより利用者、ご家族の方の満足頂ける事業所づくりめざし各係りが知恵や工夫を発揮している。